



# Good News for Japan とぎのこえ

平成二十四年三月一日発行  
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊

毎月一日・十五日発行



贈呈された作業船で湾を1周(女川・塚浜)



12月にオープンした大船渡の仮設店舗街

## 希望に向かって

石川一由紀

「残ったのは、俺と、この犬だけだからねえ」

散歩から帰ってきた初老の男性は、同じ棟がいくつもあり立ち並ぶ仮設住宅の路地を歩きながら、私にポツリと話してくれました。昨年暮れ、岩手県内のある仮設住宅での出来事です。

東日本大震災が発生して一年、長かったのか短かったのか、思いは様々であろうと思いますが、この三月でひとつの節目の時を迎えました。しかし、復興のニュースが流れる一方、年が明けても、地震発生時刻で止まったままの時計がかかっている学校や骨組みだけになった建物などが残っている地域が、まだまだたくさんあります。

私は、大震災発生後、救世軍でおこなう被災地支援活動の事務局長としての任務をいただきました。この一年間、私は、被災地で出会った大勢の方から言葉にならない様々な思いを感じてきました。

押し寄せる津波を、東京でテレビ画面を通してしか見ていない私にとって、どんなに救援、復興支援で被災地を訪れても、現地の方の経験や痛みそのものを理解することはできません。そのような私を快く迎え、

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。  
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

忍耐強く支援活動やその準備のための打ち合わせにご協力くださったる現地の方々に、感謝しています。

今月末までに救世軍が三十隻の新造船を支援することになっている漁協の組合長は、  
「俺たちは口下手だから今の気持ちをどう言っているかわからない。でも船は命だ。俺たちは頑張るよ」と、まだ電気もトイレも復旧していない浜で話してくださいました。

また、仮設店舗街の建設支援も二つの地域でおこなっていますが、出店される方々の、間に迫った自分の店の再開、そして店を通して地域貢献できるといふ喜びの表情を見ることができました。もちろん、商店経営者の多くは仮設住宅に住み、今後に大きな不安も感じておられます。

震災発生直後の避難所は、大勢の方でごったがえしていました。時を経て、段ボールの仕切りが入り、やがて、それは人の背丈ほどのパーティションに代わりました。

「自分の問題」を抱えているのは、被災地に住む人々だけではなく、毎日地下鉄で通勤している私にとっても、震災後しばらくは「人身事故」による遅れがとて多少なかつたように感じました。このまま「人身事故」の少ない日が続けばと願っていましたが、すぐに、来

(次ページに続く)

(前ページより続く)

てほしくない日常に戻ってしまいました。そして昨年、全国で年間三万人を超える方が自殺している現状があります。

大震災に遭遇するほどの大きな苦しみでなくても、たとえそれが他人から見たらとても小さな事であっても、私たちは自分の人生が変わってしまうような困難、悲しみに遭遇することがあります。その時、私たちはどこに解決の道を、助けを、求めるでしょうか。

最近、インターネットにこんな書き込みを見つけた。 「最も信頼している人に裏切られ、生きる目的を失った自分を支えてくれたのは、〇〇という曲だった。」

震災地で開催されるコンサートで勇気づけられる経験をされた方の話も聞きました。また、人の温かい声かけに助けられ、共に笑ったり泣いたりして支え合おう、ということもよく聞きます。

でも、どんなに素敵な音楽や大勢の人に囲まれても、自分自身の心に湧き上がってくる暗闇に飲み込まれるような思いになることがあるかもしれません。そのような方に、私自身の体験として、次のように言葉をかけてくださった、イエス・キリストという方を紹介したいと思います。



割くほどの憐れみを示してくださろうとしている、イエス・キリストという方の招きに

「苦勞に疲れ果てている者、重荷を背負わされている者は、誰でもいい、さあ、俺のところへ来い。休ませてやろう。俺は、おだやかで、威張らないから、俺の軛を背負って、俺のすることをよく見て、覚える。そうすれば、お前さんたちの心も安らかになる。俺の軛は背負いやすいし、俺の荷物も軽いからな。」(マタイによる福音書11章28、30節 山浦玄嗣著 日本語訳新約聖書「ガリラヤのイエシュー」より)

被災地である大船渡で出版されたこの聖書は、イエス・キリストの言葉をこの地方の言葉で綴っています。今から二十五年前のことです。私は人間関係や仕事などで八方塞がりの状態になっていました。イエス・キリストがどんな方か知識の範囲ではわかっていましたが、自分自身でなんとか生きていこうともがいていました。もがいて、もがいて、どうにもならなくなつた時、(このまま暗闇の中にいるぐらいだったら、腸を

割くほどの憐れみを示してくださろうとしている、イエス・キリストという方の招きに「さあ、俺のところへ来い」と招いてくださったイエス様の前に、イエス様が共に歩んでくださる課題と軽い荷物へと変えられていきました。私をこんなに大事にしてくださる方と出会って、孤独や痛みゆえに自分や人を傷つけるのでなく、自分もほかの人も大事にする生き方を示されました。

# 主の御名はほめたたえられよ



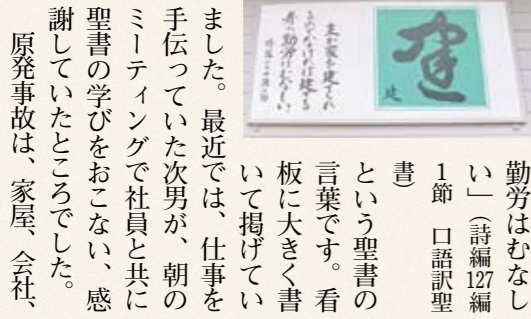
廣田 英一

私の住まいは、福島第一原発から五キロほど北西の、双葉町にあります。

三月十一日、悪夢のような地震が起こり、続いて大津波に妻の実家は押し流されました。余震と停電の中、家族が肩を寄せ合って夜を明かし、十二日朝、突然の避難命令により着の身着のまま車に飛び乗りました。当時は一時的な避難ですぐに帰宅できるものと思っておりましたが、まさかこんなに長期間、帰宅困難になるとは思っていませんでした。山間の国道は自家用車で溢れ、普段なら二時間もかからない距離を六時間以上もかかって長蛇の列を進み、福島市方面へと逃れました。

その後、娘一家の住む岩手県奥州市へと避難し、一緒に住んでいた次男一家は大宮の長男一家を経由して、嫁の両親を頼り愛知県蒲郡市へ避難しました。

私の信仰の歴史は、叔母を通して救世軍の「ときのかえ」に父が触れたところから始まります。十九歳のクリスマス、隣の町の浪江町にある救世軍浪江小隊(教会にあたる)の礼拝に出席。そこは外の厳しい寒さとは対照的に、温かい雰囲気の中に包まれていました。皆の心が神様の愛に満たされていたからでしょう。そこで神様の圧倒的な愛を感じ、自分の力で生きるのはなく、神様による命や力をいただくように決意



二十五歳の時与えられた伴侶は、農家の長男の嫁という重責を担う中、紆余曲折しながらも私の信仰についてきてくれるようになり、多くの信徒と共に、私も私の家族も成長させていただいたことを、神様に感謝せずにはいられません。



仕事、自然、暮らし、仲間、すべてのものを奪っていきなりました。遠く離れた岩手県南にも放射能のホットスポットをもち、娘は孫たちを守るための活動に必死です。

「主が家を建てられるの、勤勞はむなし(詩編127編1節 口語訳聖書)という聖書の言葉です。看板に大きく書いて掲げていました。最近では、仕事を手伝っていた次男が、朝のミーティングで社員と共に聖書の学びをおこない、感謝していたところでした。原発事故は、家屋、会社、



陸前高田での支援活動に参加 (左端から5人目)

少ずつ復興の大きさが見えてきた被災地ですが、仮設住宅での新しい生活の中に不安や寂しさを覚えて、精神的に不安定になる方なども増え、厳しい現実が続いています。救世軍の救援活動は、栄養のバランスを考えた給食や、子ども会、プラスチックによるコンサート、仮設住宅に住む方々と地域に住む方々の交流のきっかけをつくる機会の提供、クリスマスには音楽やプレゼントをもって、また大晦日には年越しそばとおせち料理をもって仮設住宅を訪問するなど、人々の体と心のケアを考えたおこなわれています。これからも、引き続き復興に向けて人々のニーズに応えたいと、細かな支援を続けていきます。



趣味の書道を伝道のために用いている

現在は近くの教会で信徒の交わりをさせていただいております。

「主は与え、主は奮闘。主の御名はほめたたえられよ。」(ヨブ記1章21節) (救世軍浪江小隊(教会)所属)

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

東日本大震災救援活動リポート 2011年3月〜2012年2月 一陣の救援

昨年三月十一日に起こった東日本大震災から一年が経とうとしています。被災された方々はもとより、日本全体にとつて長い、重い一年でありました。

救世軍では、地震発生直後から、できる限りの救援・支援活動をおこなってきました。その国際的なネットワークを通して、多くの国から、多額の支援金が寄せられ、それによって、大小様々な救援活動を継続しています。



建設中の仮設店舗街 (女川町)



クリスマスの音楽を届ける (陸前高田市・気仙町)

同時に、避難所や仮設住宅で避難生活を続けている被災された人々の生活のニーズに、具体的な物資の支援もおこなっています。五月末から仙台の仮設住宅の備品希少な状況に必要となる、女川の漁協に漁に必要な装備(ライフジャケットなど)、宮城県内に通学用自転車、海岸沿いの地区に長靴を提供しました。また、夏の熱中症対策として、温湿度計や大型扇風機を、冬の防寒対策として、支援の届いていない宮城県や福島県のみなし仮設住宅に暖房器具を、提供しました。いずれも行政からの要請に応えたものです。

(次ページに続く)

# 救世軍とは

The Salvation Army

国際的な組織のキリスト教会(プロテスタント)で、世界百二十四の国と地域で働きを進めています。



一八六五年、イギリスの牧師ウイリアム・ブー

スガ、東ロンドンらしい人々、虐げられている人々に神の愛を届けようと伝道を始めました。やがて、人々の一番必要としているものを提供しないで神の愛を伝えることはできないと、物心両面からの救いをめざすようになり、医療や社会福祉の働きが起こされてきました。そして、その時々の人々のニーズに迅速に対応するため、軍隊流の組織を取り入れ、アルコール依存症者の回復支援をおこなっている団体として、信徒もアルコール抜きのライ

## 3月～4月 救世軍では 「克己週間」と呼ぶ 募金活動をおこないます

これは、今から約120年前、救世軍の創立者ウイリアム・ブースが信徒に「それぞれ1週間だけ何かを節約して(克己して)、そのお金を献げよう」と呼びかけたことに始まります。ヨーロッパに働きを広げるために、献金を募っていた時期のことでした。この精神が今日まで引き継がれ、毎年、海外の様々な支援を必要とする国々のために、募金活動がおこなわれています。

この時期、信徒は率先して献金するとともに、周りの人にも募金をお願いします。救世軍の制服を着た伝道者や信徒が戸別訪問をし、趣旨を説明して献金を募ります。

この趣旨に賛同してくださる方は、次の方法でも献金が可能です。

- 郵便振替  
00180-5-4400  
加入者名 救世軍本営
  - 現金書留  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町2-17  
救世軍本営
  - インターネット  
救世軍ホームページ  
<http://www.salvationarmy.or.jp>
- \*いずれの場合も、通信欄に「克己週間募金」とお書きください。
- お問い合わせは、  
救世軍本営 伝道事業部まで  
TEL 03-3237-0881

フスタイルを採りました。日本での働きは一八九五年に始まりました。廃娼運動や失業者対策を押し進め、結核療養所や婦人保護施設、児童養護施設の設立などに力を尽くしました。また、キリスト教、聖書の神をわかりやすく伝え、多くの人々が真の神を信じるようになりました。

現在では、伝道の拠点である四十六の小隊(伝道所にあたる)と十の分隊(伝道所にあたる)十九の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めています。年間を通して、街頭生活者支援活動や災害被災者支援活動、様々な社会奉仕活動をおこなっています。ですが、これらは、信徒自ら献金するとともに、広く募金を呼びかけて献げられたお金を資金としています。

政治的に、また様々な面で折り合い、支援し合っています。日本の救世軍は、南アメリカ(エクアドル、ペルー、ボリビア、チリ)と、アフリカのコンゴ共和国の救世軍のパートナーになっており、これらの国の人々が抱える困難や問題への対処・解決のために、現地の救世軍が講じる対策や活動への援助をおこなっています。



チリ大地震にて被災地支援



タンクで水を届ける(ケニア)

国や地域の状況に応じて必要とされる働きは異なりますが、救世軍のすべての働きは、キリストの愛に基づき、人種や思想を超えて人々に仕えるためのものなのです。

## パプアニューギニアでの JICA(国際協力機構) 草の 根技術協力事業、完了!

二〇〇六年から約六年にわたって取り組んできたJICAとの協力事業が、この三月に完了します。

プロジェクトの対象地域となったガルフ州ケレマ周辺と東セビック州サラングアン・ドゥ村周辺の地域では、「きれいで安全な飲み水の供給」と「保健衛生環境の改善」をめぐり、雨水タンクやトイレなどをつくり、全戸にマラリア防止の蚊帳を配り、また保健衛生教育・訓練などをおこないました。村の衛生環境は大幅に改善され、人々の衛生意識も向上しました。さらに、皆で村をより良くしようという意識が生まれ、自治組織もできました。



村の小学校で子どもたちに手洗い講習

発行日 毎月一日・十五日  
定価 毎月五〇円(〒六〇〇円)  
十五日号一部六〇円(〒六〇〇円)  
クリスマス特集号(十二月一日号)一部一〇〇円(〒六八〇円)  
一年分(三三〇円)送料七二八円  
振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍  
代表者 吉田 眞  
編集人 齋藤 恵子  
〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番一  
電話 東京(03)三三三七〇八八一  
発行所 救世軍本営  
印刷所 図書印刷株式会社

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)

創立者 ウイリアム・ブース 大將 リンダ・ボンド (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 吉田 眞 (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp> E-mail: [webmaster@salvationarmy.or.jp](mailto:webmaster@salvationarmy.or.jp)